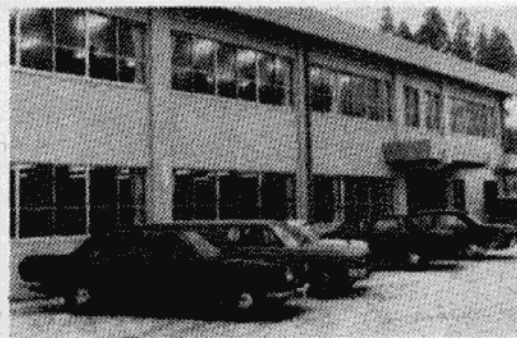


所野小倉山に 栃木県日光治山事務所が完成

所野小倉山内に「栃木県日光治山事務所」が完成し、二月四日、同事務所に関係者を招いて竣功式が行なわれました。



完成した治山事務所

日光市と足尾町・栗山村を中心とした北西山岳地帯は、利根川水系の鬼怒川・渡良瀬川の重要水源地に位置し、同地帯の治山事業は、下流地区の災害を防ぐうえに重要な役割を果しています。

しかし、近年、治山事業は機械施工の発達や工法・材料の革新などから、新しい土木技術者の育成が急務となっているため、前橋営林局と栃木県が共同で、林業土木総合事務所の設置をすすめてきたものです。

なお、事務所の建設のほかに中宮丸山に研修生宿舎も建設されており、総事業費は約一億八千万円で、今後、森林土木事業の研修・調査・技術開発などに、大きな効果をあげることが期待されています。

住所を
変えたら
14日以内に
届け出を

他の市町村から当市に転入されたかたは、十四日以内に市民課または支所・出張所の窓口へ必ず届け出て下さい。

届け出には、前住地の市役所(役場)からの転出証明書と印鑑・国民年金手帳をご持参ください。

住民登録をしませんと、市役所からの通知やお知らせが届かなくなったり、たいせつな権利である選挙での投票もできなくなります。住所が変わったら、必ず届け出をしてください。

写真、上は齋藤さん下は
手塚くんの作品



市が行なった昭和四十六年度納税PRポスター展は、市内の小・中学校から八十点の応募がありました。審査の結果、次のとおり入選が決まりました。

○小学校の部
▽特選 齋藤宮子(山久保小)
▽入選 小栗満美(日光小)
永田吉美(日光小) 新ヶ江孝子(中宮祠小) 吉新智子(山久保小)



○中学校の部
▽特選 手塚博(東中)
▽入選 高村光彦(日光中)
伊藤亮子(日光中) 飯田利江(東中) 早乙女昌子(東中)

市史編さんより だより

三月の市史

勝道上人のこと

▽天平神護二年三月 四本竜寺を創建。
▽天応二年三月 二荒山(男体山)頂を極める。
▽弘仁八年三月 八十三歳で没す。

日光開山の祖、勝道上人は天平七年(七三五)下野国芳賀郡(真岡市)に生まれ、幼名を藤系といました。

南河内郡の薬師寺で、仏法を学んだ藤系は、師から与えられた嚴朝という法名を、自ら勝道と改め、天平神護二年(七六六)三月、十人の弟子とともに大谷川を渡り、四本竜寺を建てました。

勝道は、神護景雲元年(七六七)と天応元年(七八一)の二度、二荒山頂を目指したが失敗し、天応二年三月、自づから書き写した経文、仏画を背負い、堅い願を立てて「我れもし山頂に至らざればまだ菩提に入らず」との悲壮な決意のもとに登山し、ついに

三日目に登頂に成功しました。時に勝道四十八歳でした。

二年後の延暦三年三月、勝道は神宮寺(中禅寺)を建て、ここに四年間滞在、このころ勝道の名声は朝廷にも聞こえ、延暦八年(七八九)上野の総講師に任ぜられ、上人の称号を賜わりました。

翌延暦九年に、現在の二荒神社の起源となった社を建てた上人は、弘仁八年(八一七)三月一日、多くの徒弟に見守られながら、八十三歳の生涯を閉じたのでした。

東照社(東照宮)の竣功

元和三年三月
徳川家康公を祀る、東照宮が



山内表参道に建てられている勝道上人の銅像

竣功したのは元和三年(一六一七)三月で、二代將軍秀忠の命により、天海僧正と藤堂和泉守高虎、本多上野介正純兩名が奉行となり、わずか五か月ばかりで完成しました。

その時の建物は、本社・本地堂・廻廊・御供廊・御厩などで、今日のようなつばな建造物になったのは、寛永十一年の造営からです。

化けどうろうの寄進

正応五年(一二九二)三月 鹿沼権三郎教阿、清原氏女らが、二荒山神社に青銅のどうろうを寄進しました。このどうろうが、俗に「化けどうろう」といわれているもので、現在は重要文化財に指定されています。